

某日

某城下町にて…



なんだこれ…

ルーインド
オーガズムで
甘いキする話



以蔵

町から離れた農村で百姓をしている。
貧乏生活が長い両親に楽な暮らしを
させてあげたいと思っている。

浮世絵…
も…でる…?
若い男…

身長五尺五寸
体重十五貫…



報酬三百文も…?
ふん…

俺には
関係ねえか…

そのおま!





なんだ、お前！？



な



うんうん！
背問題なし、
顔も良い、

身体つきは
問題ないで
あろう！！

!!?



ワシか？



ワシはこの貼紙を
貼った絵師だ！

モデルを
探しとる!!

浮世絵師





ううむ頼む！
この通りだー！
お主を描きたーい！！

やっやめろ！

土下座☆



…わかった！
そこまで言うなら
俺なんて
好きにだけ
描けばいい。

金が出るなら
構わん、
勝手にしろ



そうだとところで
お主、ちんぽは
立派か？

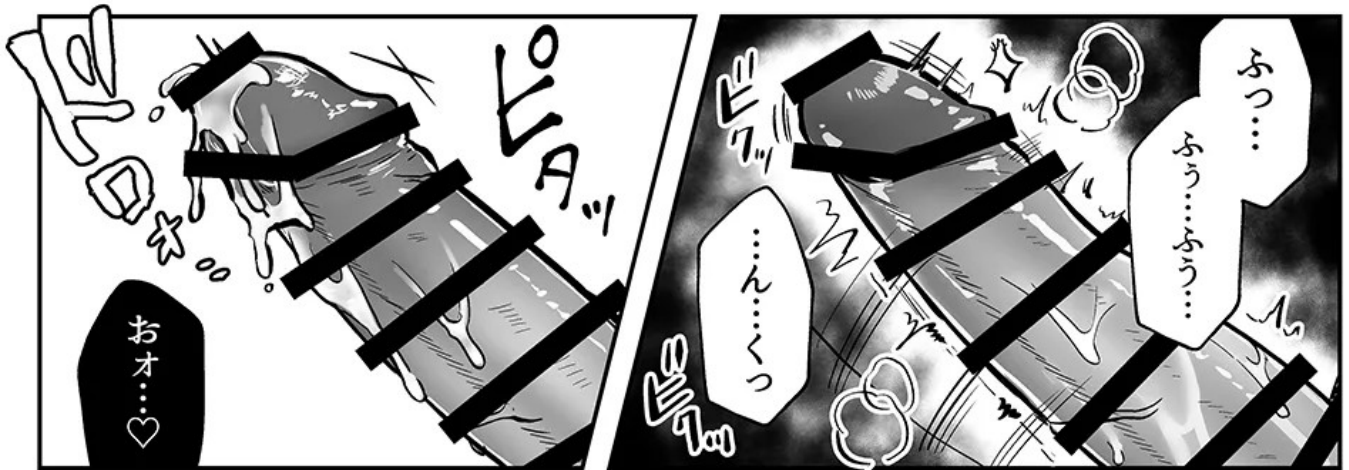
え？

ワシが描くのは
春画だからな

嘘だろ
先に言えよ…



恩にきる！





また気持ちよく
扱いてやろう、ほら、
ここまで腰を伸ばせ

んっ……
んんうっ……ふ……

完全に性器に
脳が支配
されてますね

寸止め続けて
気持ちよく
射精できて
ないからな



男は勢いよく出すと
萎えてしまつて
使い物にならなくなる

しかしワシたちは
長く勃起しつづけて
もらわんと絵が描けん。

だからこうして少しずつ
半端な射精をさせて
勃起を継続させる……



覚えておくと
いいぞ。

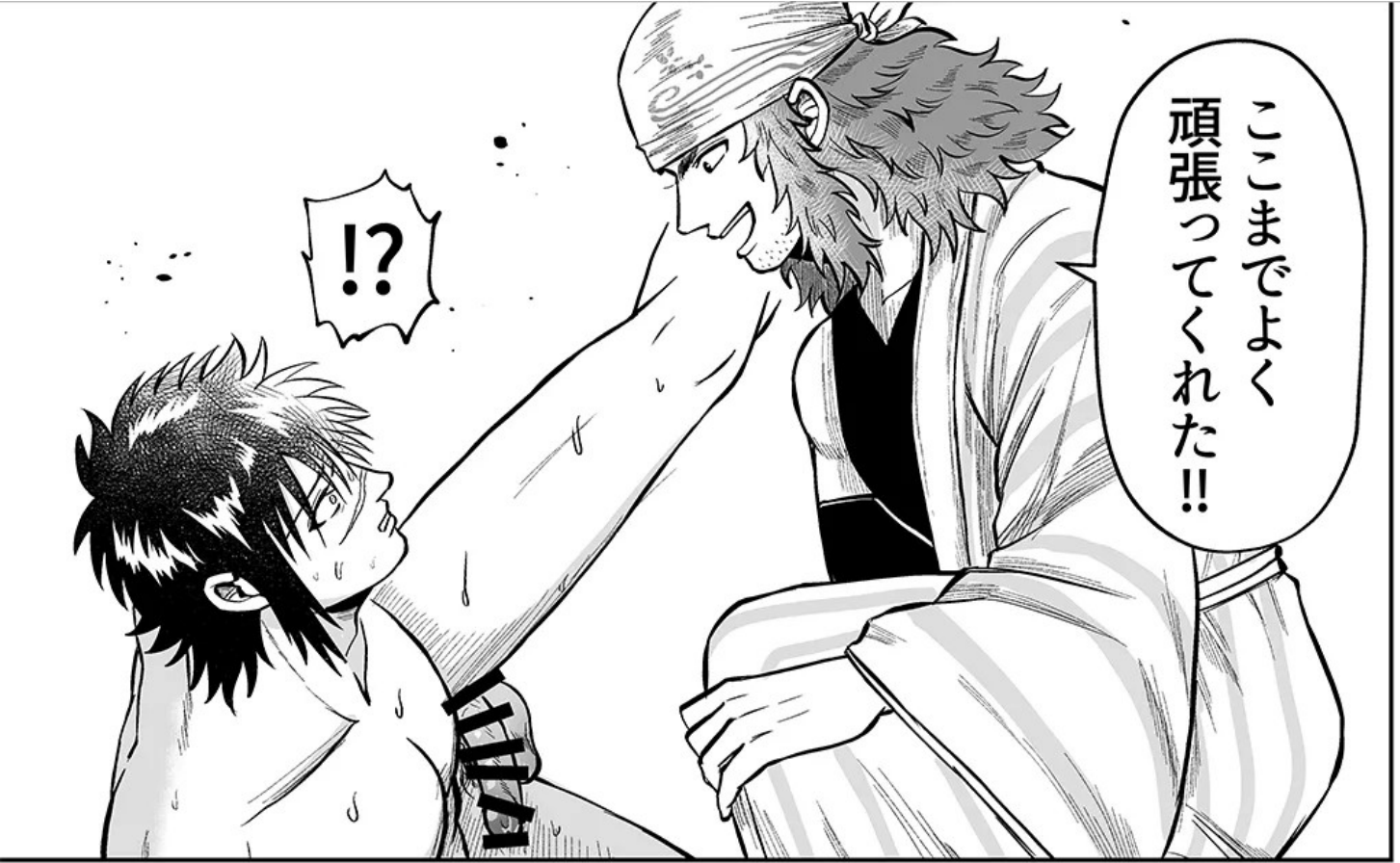
蕩けさせて、
頭の中を勢いよく
射精することだけで
いっぱいにする

ワシの描きたいものは
そんな熱に浮かされた
男の欲じゃ

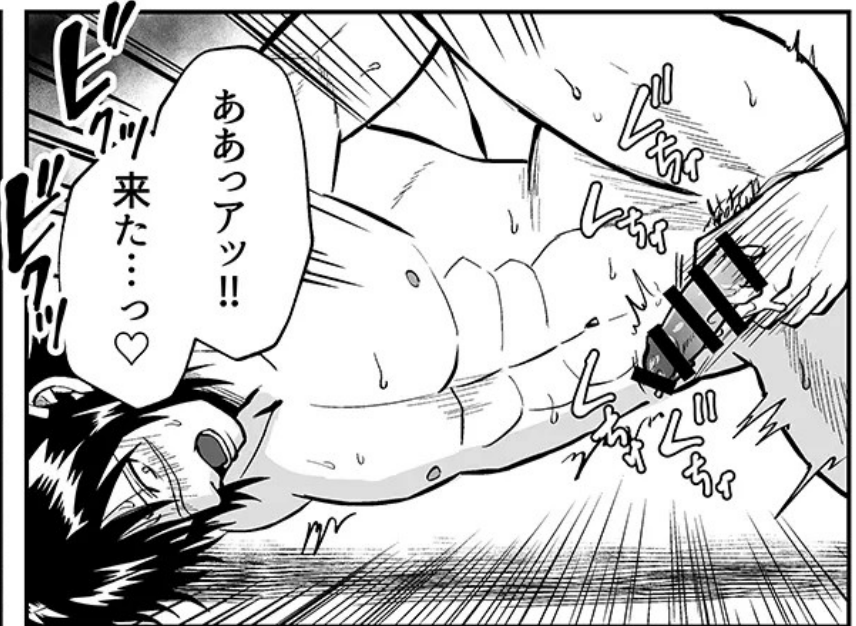
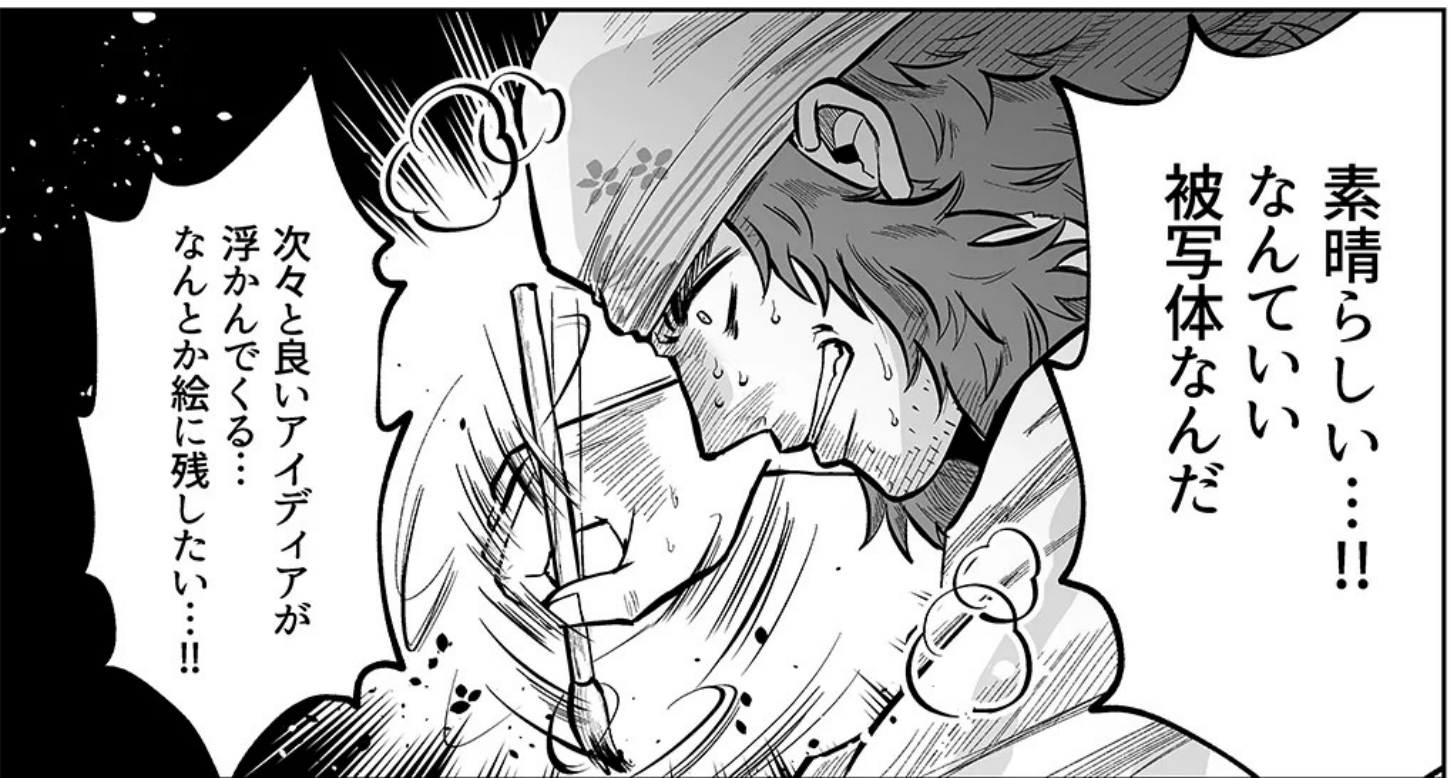


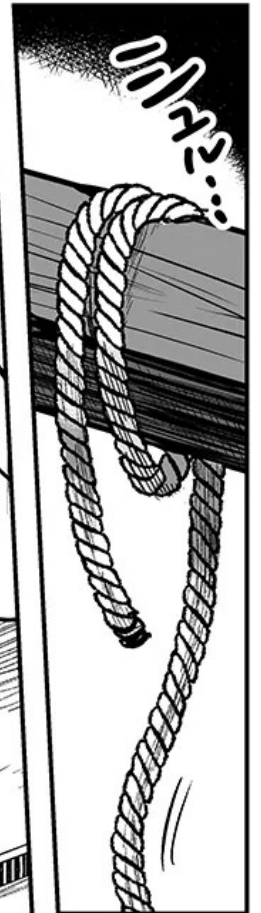
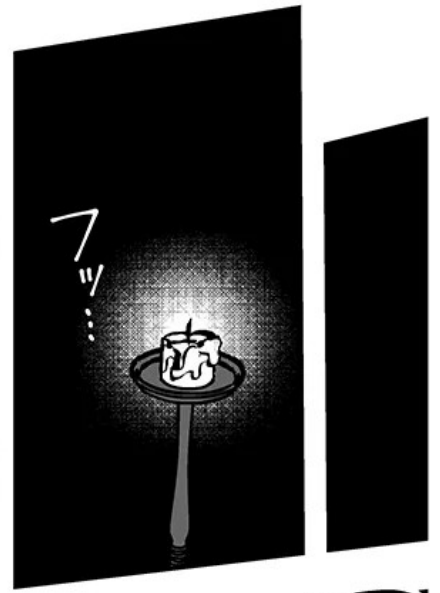
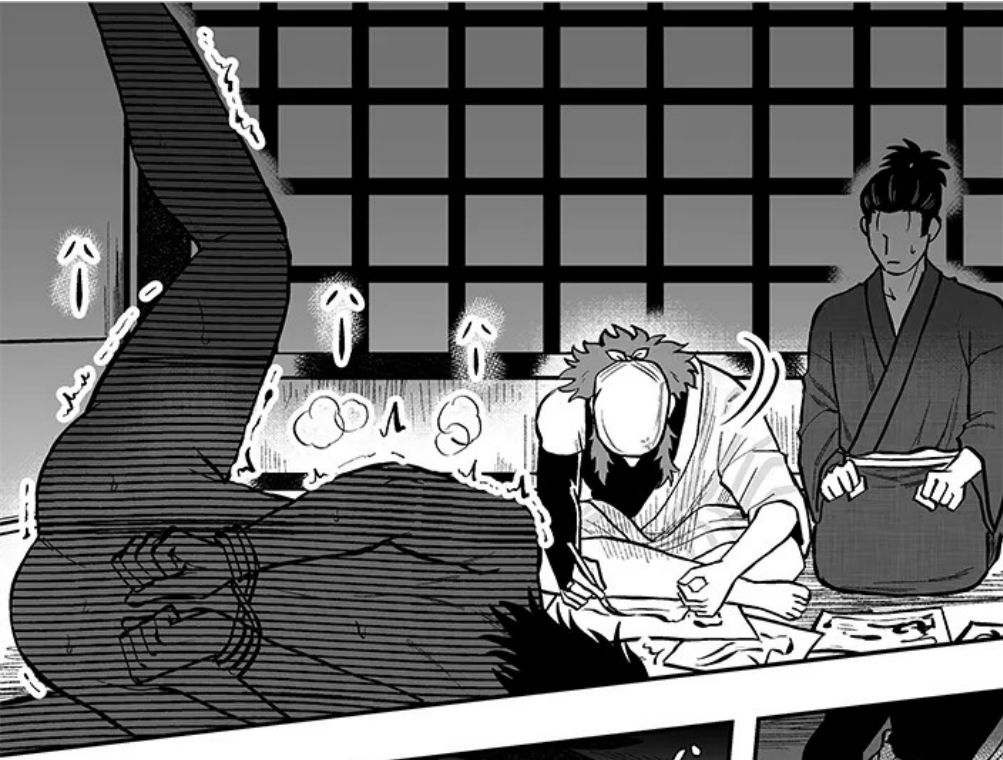














師匠...?

次は赤い縄、いや、

よがり泣かせるのも良いだろう



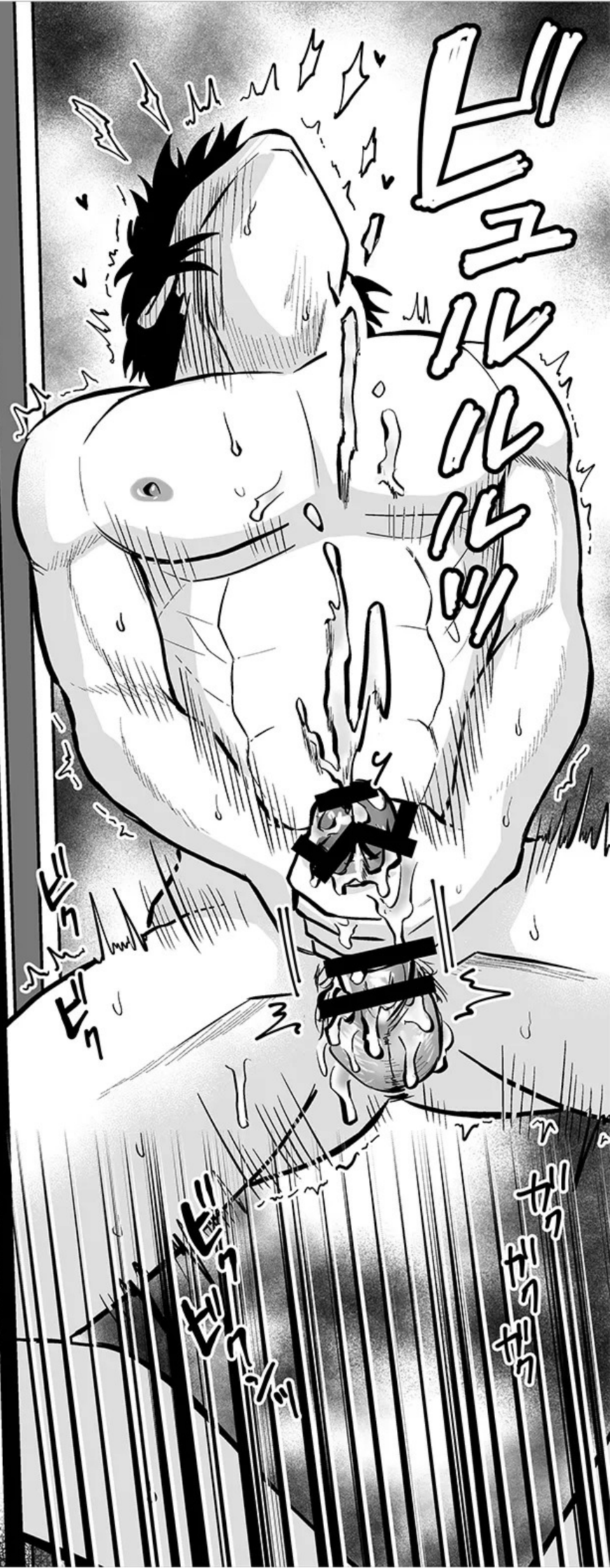
釜は了承してくれるだろうか?



性具屋に諸々調達してもらって...

ニヤリッ

ああ...
まだまだ彼を描きたいのう



ヒュルルル
ヒュルルル

ヒュルルル

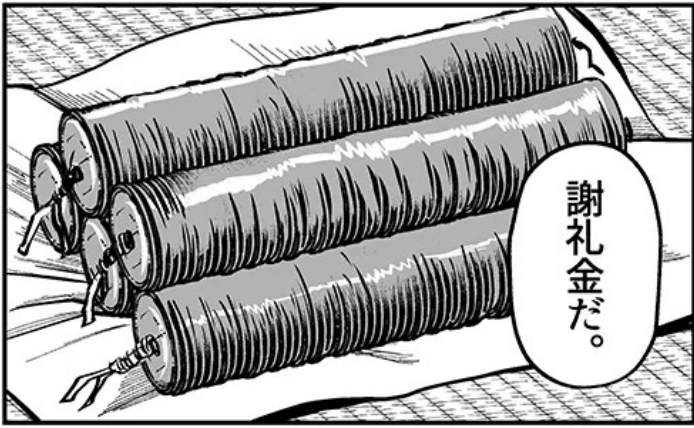
ヒュルルル

ヒュルルル





昨日は本当に
世話になった！



謝礼金だ。



それと…



またワシに絵を
描かせてくれんか

……それで、
以蔵殿



…！こんなに
いいのか…？



以蔵殿を
見ていると

わーっと描きたい絵が
浮かんできて
止まらないのだ!!

実はもう
次の着想も
浮かんでいて

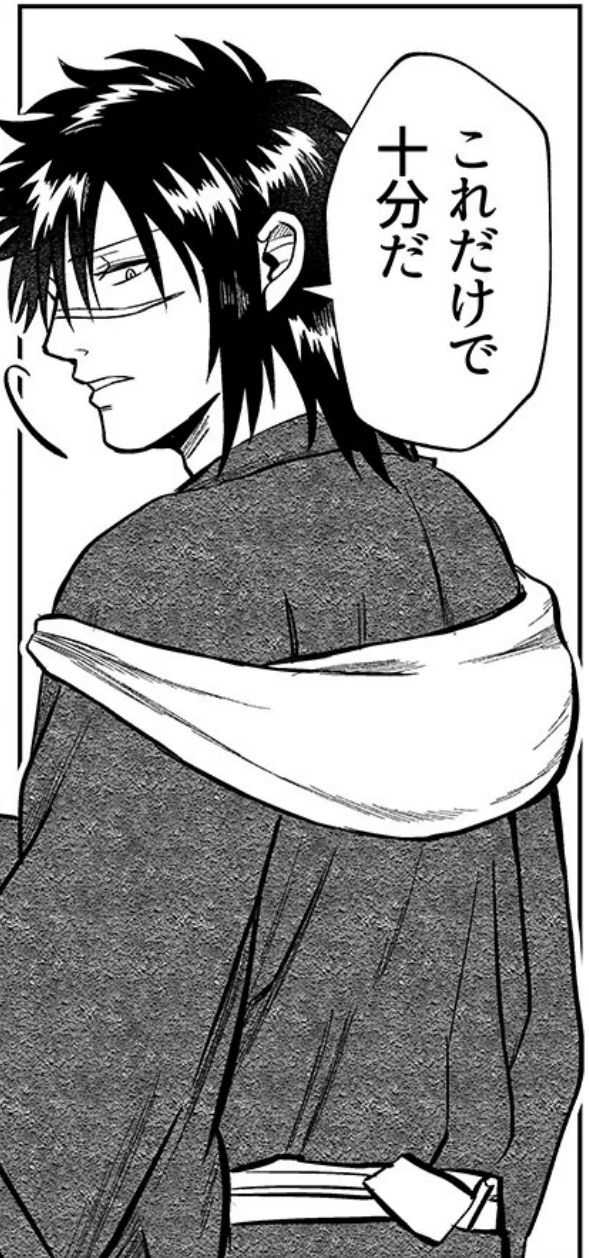
断る



...



なぜだ!?



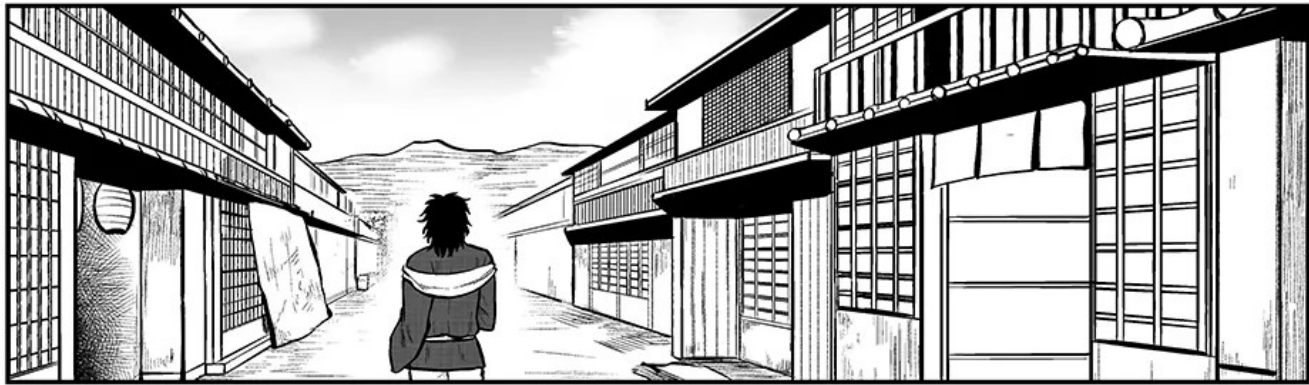
これだけで
十分だ



以蔵殿には
他にはない
魅力がある!

ワシと組めば
今の苦しい生活から
抜け出せる

無理だ





それとも

酷く痛めつけて
調教すべきか…。



それにしても
あの以蔵どのの
手負いのような
雰囲気は…

あれは、
優しく手当をし
手懐けるべきか



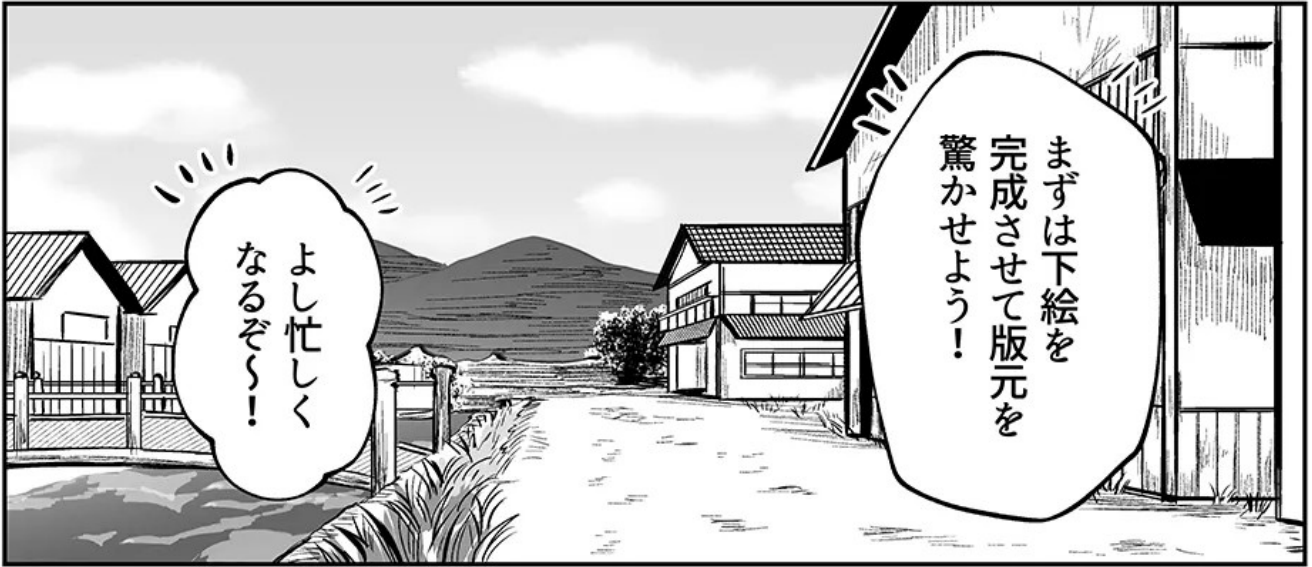
えっ!?

お、俺には
わかりません



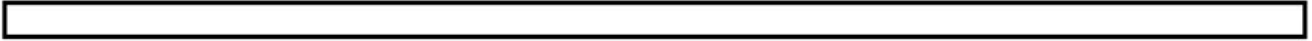
どちらが
輝くと思う?

はは!
他にとられる前に
なんと少しでも
手に入れたい



まずは下絵を
完成させて版元を
驚かせよう！

よし忙しく
なるぞ〜！



こんな大金…

浮浪人に
盗られる前に
早く帰りたい…

ドキ
ドキ

変人絵師に
気に入られるように
なった